

I 実践

1 実践テーマ

「生徒指導の機能を生かした、生徒一人一人が、自他のよさに気づき、互いを大切にしようことができる人権感覚や人権意識の育成」～人と人とのつながりを感じて自分の思いを表現できる生徒をめざして～

2 実践内容

(1) 「豊浦中3i精神：まなびあい・みがきあい・たかめあい」を生かした活動の推進と継続

学校課題研究（「自己表現力を高めるための学習の在り方 ～思考の過程を育むことをめざして～」）を軸とした「豊浦中3i精神」の実践は、学校全体が人と人とのつながりを感じて日々の生活を過ごすことに意義をもっている。この好ましい人間関係づくりに根ざした活動の推進は、5年目を迎え、徐々に、校内から地域へと発信し始めている。

なお、「豊浦中3i精神」が、いつでも生徒の心にありその行動に結びつくように、教室や廊下など校内掲示をしている。（資料1）



【資料1「豊浦中3i精神」(校内掲示)】

ア 朝のあいさつ運動

学級単位での当番制で、あいさつ運動を行っている。昨年度までは、生活委員会の生徒が毎月始めに実施していたが、生徒会を通して、全校生徒での取り組みへ踏み切りたいとの申し出を受け、本年度より実施している。当番にあたった学級は、話し合い一致団結して、2つの門に立ち挨拶推進運動を行っている。毎回、生徒相互で気持ちよく挨拶を交わす光景が見られ、爽やかな朝のスタートとなっていた。

イ 朝の読書

本校の朝は、静寂の中で始まる。早朝ランニングを済ませた生徒も、当番活動を終えた生徒も、いつの間にか合流して、読書空間へと滑り込む。無言の中での級友との時間の共有である。言葉は交わさない中でも、安心して自分の世界を楽しめる人間関係づくりとして大切な毎朝の営みである。

ウ 授業における学び合い

本校では、人間関係づくりを基盤に据えた学び合いの場を設定した授業づくりをめざしている。本年度は、授業における学び合いを生徒の思考の過程が可視化することを求めて展開している。（資料2）

国語科や数学科では、話し合い活動による練り上げの場面を大切に、相互批評する目も養ってきた。聞き合う耳と心を持てるようにする中で、他者のよさに気づき学び取ろうとする姿勢が育ってきている。学習コーナーに友人の考え方が掲示されたことやT・Tの導入も学習意欲の向上につながった。

エ 生徒主体の学校行事の充実

生徒が最も前のめりとなって取り組む行事活動。今年度も、生徒会・学年生徒会を中心に話し合い活動を進める中で、企画・準備・運営と実践できるように活動の場を設定した。

こころ豊かな体験学習（1年）では、宿泊前に「サバ飯づくり（サバイバル飯盒）」に挑戦し、宿泊への準備と意欲を高めた。（資料2）宿泊学習（2年）では、お世話になった宿泊施設の方々へ、昨年収穫したひまわりの種をお礼の品として持参した。宿泊施設で最後の仕上げを加えたプレゼントは退所式の折、施設の方から大歓迎された。（資料3）体育祭後2ヶ月間かけて臨んだ合唱祭での歌声は、卒業記念CDとなり記録に残る。そして、思い出は、記憶となって、生徒の心と体に刻まれる。「来年は、〇〇を頑張ってみよう」と意欲をもって進級・進学する生徒たち。これが、豊浦中の伝統である。（資料4）



【資料2「サバ飯づくりに挑戦」】



【資料3「ひまわりの種プレゼント」】



【資料4「全校で熱唱する合唱祭」】

オ サンフラワープロジェクトⅡ（十王川清掃・ひまわり栽培）

十王川清掃や公園等でのひまわり栽培を通して、地域との連携による活動の充実を図った。日頃、お世話になっている地域の皆さんとの活動は、和やかなうちに進められた。「また来年ね。」と声をかけられて、「はい。また一緒に。」と返す言葉が誇らしげであった。



【資料5 「ひまわり栽培のための耕作」】



【資料6 「地域の方とともに十王川清掃」】

カ メッセージカードの作成と掲示並びに礼状作成（資料7）

行事を目前にして、あるいは行事後に、生徒たちは、その時々のお気持ちを言葉に表しメッセージとして広く公に表明することを慣例としている。主に、行事の主催者に対する感謝・労いのメッセージカードである。この試みも5年目を迎える。きっかけは、5年前の1年生が、入学時からの3年生の優しさに対するお礼を示した、「総体へ向けての励ましの言葉」集めであった。今年も、生徒たちの感激と次の行事へのやる気を引き出した。『分かりきった言葉だけれど、敢えて言葉にして伝える。』生徒たち。だからこそ、目標を持って突き進むことができる。



【資料7 「メッセージカードの掲示」】

(2) 「生活反省カード」の活用

生徒は、毎日、生活反省カードへの記述を通して担任とのコミュニケーションを図っている。ここでは、日々の生徒の生活の様子をとらえて大人の視点もぶつけてみることから、より積極的な生徒指導も実践できる糸口となっている。カード内容は、文章記述と項目毎の振り返りである。反省項目については、毎年、一人一人の生徒の内面とより向き合えるようにと検討を加えている。

(3) 「人権メッセージカード」の作成と人権作文の取り組み

生徒たちは、3i精神を継続実践する中でお互いを思いやる気持ちが育ってきている。だからこそ、より具体的に「認め合うこと」について考えてほしいと、「人権」について考えてみる授業を全校で実施している。今年も、友人や家族、地域について考え感謝の念を抱く機会とすることができた。

3 成果

生徒が年間行事の中で主力を注ぐ体育祭と小松ヶ丘祭（文化祭）。学級一丸となって勝利を目指す。全力を尽くした先には、「結果よりも、今まで頑張ったことを出し切りたい。」という真の目標が見えていた。結果を素直に受け止め涙と拍手にわく会場は、とても神々しい。真剣に戦った姿勢があったからだ。活動過程を大切にすることは、自己を鼓舞し他者の喜びや頑張りを思いやれる集団づくりにつながっていると考えられる。

また、「書くこと」の定着化と同時に、書くことを厭わない子へと成長している。授業中や生活反省カード等を通して、生徒相互の他者を思いやる仕草やはたらきかけが見られ、大きな成果を感じた。

II 今後の課題

今後も、人と人とのつながりを感じて自分の思いを表現できる生徒をめざして、「豊浦中3i精神」を生かした活動を生徒とともに創造していきたい。そのためにも、人権について考える場の工夫を一層することが課題である。人権感覚をより高める手立てとして、定着している「人権作文」や授業をより身近な題材で取り組む工夫をすることや、家庭や地域との連携の下、生徒主体の活動を深めていく学校づくりの継続に努めたい。